

ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業
評価アンケートについて

もくじ

◇目的	・・・	2
◇評価の概要	・・・	2
◇評価の単位／評価番号について	・・・	2
◇アンケートの具体的な手法	・・・	3
◇アンケートの回答者（対象者）	・・・	3
◇アンケートの区分	・・・	4
◇アンケート実施時期	・・・	4
◇アンケートの流れ	・・・	5
◇アンケート実施整理表	・・・	6
◇5段階評価の判定区分	・・・	7
◇判定の基準	・・・	8
◇判定整理表	・・・	9
◇判定整理表 詳細	・・・	10

◇目的

ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業の実績や事業実施に伴う効果について、ぐんま緑の県民税評価検証委員会において評価を行い、県民に公表するものとするため、補助事業者及び地域評価者を対象としてアンケートを実施し、評価を行うための判定因子とする。

◇評価の概要

評価者：ぐんま緑の県民税評価検証委員会

評価時期：事業着手から2年後（3年目）に実施

評価の単位：継続的に取り組む一連の事業又は関連する事業（評価番号単位）

◇評価の単位／評価番号について

継続的に取り組む一連の事業又は関連する事業毎に評価番号を付番する
評価番号は、下表のとおりとする。

評価番号	市町村－事業名－評価年度－連番
------	-----------------

例) 前橋－里山－H30－1、高崎－自然－H31－2

※一連の事業のイメージ

H28年度（初年度）	H29年度（2年目）	H30年度（3年目）
 困難地整備支援／整備	 管理	 管理
例) 困難地整備支援 ○○市□□地区 竹林1.00ha 実施団体：○○市	例) 管理 ○○市□□地区 竹林1.00ha 実施団体：□□自治会	例) 管理 ○○市□□地区 竹林1.00ha 実施団体：□□自治会

同一箇所

◇アンケートの具体的な手法

5段階評価及びコメント型の2つの手法を用いて判定因子とする。

5段階評価	「よい」「わるい」、「できた」「できない」などの、対となる言葉を両極にとり、その間をスケール化（5段階）し、回答者の印象やイメージを定量的に明らかにするための手法。
コメント型	5段階評価（定量的）では把握できない内容について、回答者が自由に記述することにより、内容を把握するための手法。

◇アンケートの回答者（対象者）

補助事業者	ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業に取り組んだ団体等 例) 市町村、NPO 法人、ボランティア団体、自治会など
地域評価者	ぐんま緑の県民基金市町村提案型事業の事業内容等を熟知（理解）し、補助事業者が実施した事業内容について客観的な視点に基づき判断できる者 例) 市町村

◇アンケートの区分

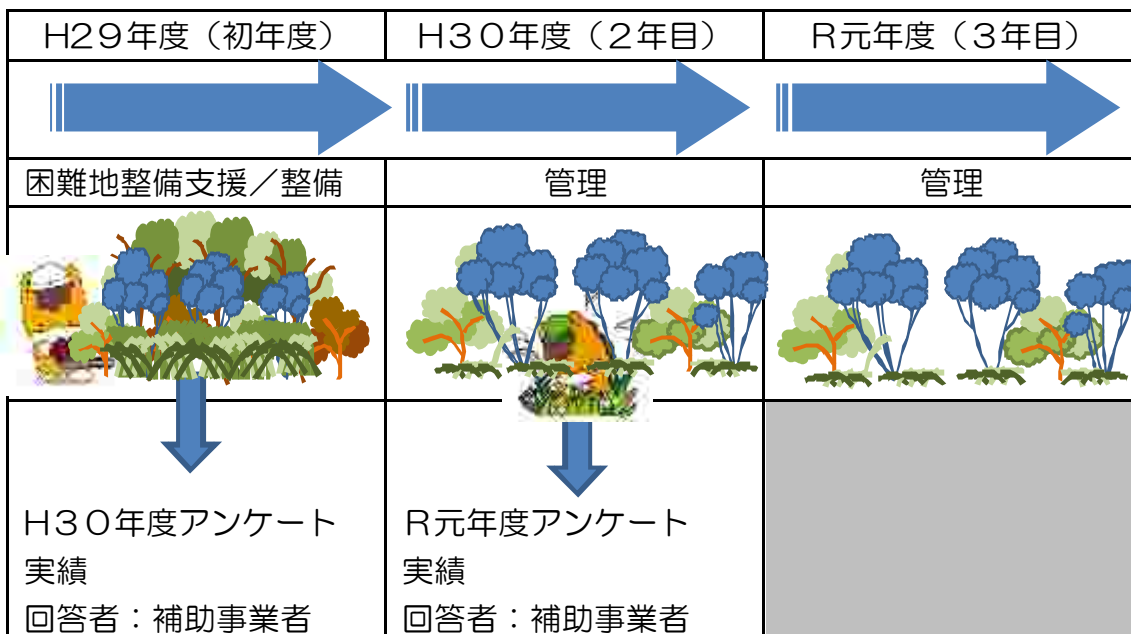
<p>I 実績 【回答者】 ・補助事業者</p>	<p>【アンケートの視点】 事業の実施した内容が、採択された計画の内容どおり実施されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・事業規模、事業内容 ・経費、コスト ・目的の達成 ・管理体制※荒廃した里山・平地林のみが対象 </p>
<p>II 効果 【回答者】 ・補助事業者 ・地域評価者</p>	<p>【アンケートの視点】 II-1（公共性） 取り組んだ事業の効果が地域に対して利益があるか。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の意見、主体性 ・地域の利益 II-2（効果の可視性） 取り組んだ事業の効果が、事業実施により目に見える形で効果が得られているか。また、事業を実施することで社会的な波及効果が期待できるか。 <ul style="list-style-type: none"> ・事業の継続性 ・事業の波及効果 ・意識の向上 </p>

◇アンケート実施時期

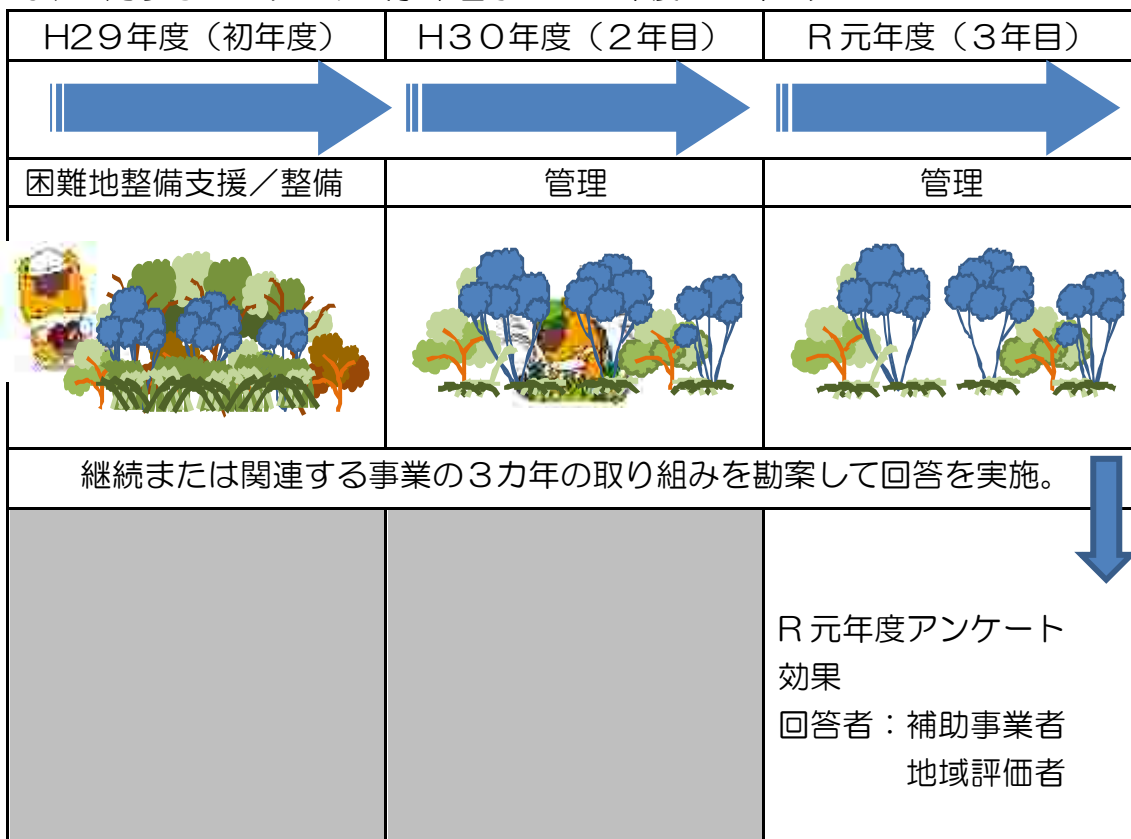
<p>I 実績</p>	<p>各補助事業の事業完了後に実施 （毎年実施） ※評価を実施した事業については、実績のアンケートは対象外</p>
<p>II 効果</p>	<p>事業着手から2年後（3年目）に実施 （3カ年の取組状況を通じて回答）</p>

◇アンケートの流れ

実績に関するアンケート：事業完了後に実施



効果に関するアンケート（事業着手して2年後：3年目）



◇アンケート実施整理表

事業区分	I 実績	II-1 効果		II-2 効果		備考
	補助事業者	補助事業者	地域評価者	補助事業者	地域評価者	
荒廃した里山・平地林の整備 (設問数)	○ (4)	○ (2)	○ (2)	○ (3)	○ (3)	
荒廃した里山・平地林の整備 【刈払機、粉砕機の購入】 (設問数)	○ (4)	○ (2)	—	○ (3)	—	
貴重な自然環境の保護・保全 (設問数)	○ (3)	○ (2)	○ (2)	○ (3)	○ (3)	
森林環境教育・普及啓発 (設問数)	○ (3)	○ (2)	○ (2)	○ (3)	○ (3)	
森林の公有林化 (設問数)	○ (3)	○ (2)	—	○ (3)	—	
独自提案事業 (設問数)	○ (3)	○ (2)	○ (2)	○ (3)	○ (3)	

◇5段階評価の判定区分（A、B、C 判定）

アンケートの5段階評価の結果については、設問毎の点数を合計し、下表のとおり3つの区分で判定する。

判定	内容
A	取り組みが特に優れており、模範となり得る
B	現状の取り組みが十分である
C	現状の取り組みには課題があり、改善が必要

なお、設問毎の点数の合計の区分については、下表の判定基準による。

		荒廃した里山・ 平地林の整備	貴重な自然環境の保護・保全 森林環境教育・普及啓発 森林の公有林化 独自提案事業
区 分	判定	判定基準（点数）	判定基準（点数）
Ⅰ 実績	A	15 ～ 20	11 ～ 15
	B	10 ～ 14	8 ～ 10
	C	4 ～ 9	3 ～ 7
Ⅱ-1 効果	A	8 ～ 10	8 ～ 10
	B	5 ～ 7	5 ～ 7
	C	2 ～ 4	2 ～ 4
Ⅱ-2 効果	A	11 ～ 15	11 ～ 15
	B	8 ～ 10	8 ～ 10
	C	3 ～ 7	3 ～ 7
合計	A	32 ～ 45	29 ～ 40
	B	23 ～ 31	20 ～ 28
	C	9 ～ 22	8 ～ 19

◇判定の基準

嵐山・平地林

I 実績 設問4 最大:20、最低4

内容	判定	点数	
取り組みが特に優れており、模範となり得る	A	15	~ 20
現状の取り組みが十分である。	B	10	~ 14
現状の取り組みには課題があり、改善が必要	C	4	~ 9

下位 点数×設問数	中 点数×設問数	上位 点数×設問数
4×3 3×1		5×4
3×2 2×2	3×4	4×2 3×2
1×4		3×1 2×3

II-1効果 設問2 最大:10、最低2

内容	判定	点数	
取り組みが特に優れており、模範となり得る	A	8	~ 10
現状の取り組みが十分である。	B	5	~ 7
現状の取り組みには課題があり、改善が必要	C	2	~ 4

下位 点数×設問数	中 点数×設問数	上位 点数×設問数
4×2		5×2
3×1 2×2	3×2	4×1 3×1
1×2		2×2

II-2効果 設問3 最大:15、最低3

内容	判定	点数	
取り組みが特に優れており、模範となり得る	A	11	~ 15
現状の取り組みが十分である。	B	8	~ 10
現状の取り組みには課題があり、改善が必要	C	3	~ 7

下位 点数×設問数	中 点数×設問数	上位 点数×設問数
4×2 3×1		5×3
3×2 2×1	3×3	4×1 3×2
1×3		3×1 2×2

総合 設問9 最大:45、最低9

内容	判定	点数	
取り組みが特に優れており、模範となり得る	A	32	~ 45
現状の取り組みが十分である。	B	23	~ 31
現状の取り組みには課題があり、改善が必要	C	9	~ 22

下位 点数×設問数	中 点数×設問数	上位 点数×設問数
4×5 3×4		5×9
3×5 2×4	3×9	4×4 3×5
1×9		3×4 2×5

嵐山・平地林以外

I 実績 設問3 最大:15、最低3

内容	判定	点数	
取り組みが特に優れており、模範となり得る	A	11	~ 15
現状の取り組みが十分である。	B	8	~ 10
現状の取り組みには課題があり、改善が必要	C	3	~ 7

下位 点数×設問数	中 点数×設問数	上位 点数×設問数
4×2 3×1		5×3
3×2 2×1	3×3	4×1 3×2
1×3		3×1 2×2

II-1効果 設問2 最大:10、最低2

内容	判定	点数	
取り組みが特に優れており、模範となり得る	A	8	~ 10
現状の取り組みが十分である。	B	5	~ 7
現状の取り組みには課題があり、改善が必要	C	2	~ 4

下位 点数×設問数	中 点数×設問数	上位 点数×設問数
4×2		5×2
3×1 2×1	3×2	4×1 3×1
1×2		2×2

II-2効果 設問3 最大:15、最低3

内容	判定	点数	
取り組みが特に優れており、模範となり得る	A	11	~ 15
現状の取り組みが十分である。	B	8	~ 10
現状の取り組みには課題があり、改善が必要	C	3	~ 7

下位 点数×設問数	中 点数×設問数	上位 点数×設問数
4×2 3×1		5×3
3×2 2×1	3×3	4×1 3×2
1×3		3×1 2×2

総合 設問8 最大:40、最低8

内容	判定	点数	
取り組みが特に優れており、模範となり得る	A	29	~ 40
現状の取り組みが十分である。	B	20	~ 28
現状の取り組みには課題があり、改善が必要	C	8	~ 19

下位 点数×設問数	中 点数×設問数	上位 点数×設問数
4×5 3×3		5×8
3×4 2×4	3×8	4×4 3×4
1×8		3×3 2×5

◇判定整理表

判定整理表（総括） 評価年度：平成〇〇年度

＜んま緑の県民基金市町村提案型事業 【総括評価】

総括評価					
事業名	評価対象	項目	A	B	C
荒廃した里山・平地林の整備		内訳			
		構成比	%	%	%
荒廃した里山・平地林の整備 【刈払機、粉砕機の購入】		内訳			
		構成比	%	%	%
評価					
事業名	評価対象	項目	A	B	C
貴重な自然環境の保護・保全		内訳			
		構成比	%	%	%
評価					
事業名	評価対象	項目	A	B	C
森林環境教育・普及啓発		内訳			
		構成比	%	%	%
評価					
事業名	評価対象	項目	A	B	C
森林の公有林化		内訳			
		構成比	%	%	%
評価					
事業名	評価対象	項目	A	B	C
独自提案事業		内訳			
		構成比	%	%	%
評価					

平成 年 月 日
評価検証委員 印

判定整理表（総括） 評価年度：平成2
※評価検証委員会が評価を記載する

対提案型事業 【総括評価】

【総括評価】
評価検証委員会が記載
市町村提案型事業の総括的な評価を記載

総括評価					
事業名	評価対象	項目	A	B	C
荒廃した里山・平地林の整備	30	内訳	10	15	
		構成比	33%	50%	
荒廃した里山・平地林の整備 【刈払機、粉砕機の購入】	10	内訳	5	4	
		構成比	50%	40%	
評価					
事業名	評価対象	項目	A	B	C
貴重な自然環境の保護・保全	8	内訳	2	6	0
		構成比	25%	75%	0%
評価					
事業名	評価対象	項目	A	B	C
森林環境教育・普及啓発	20	内訳	10	8	2
		構成比	50%	40%	10%
評価					
事業名	評価対象	項目	A	B	C
森林の公有林化	5	内訳	3	2	0
		構成比	60%	40%	0%
評価					
事業名	評価対象	項目	A	B	C
独自提案事業	10	内訳	5	4	1
		構成比	50%	40%	10%
評価					

【評価対象】
事務局が作成
当該年度に評価の対象となる件数
（※評価番号の件数）

【判定結果】
事務局が作成
アンケートをもとにA、B、C判定した結果を事務局（林政課）が入力

【評価】
評価検証委員会が記載
事業メニュー毎の評価を記載

平成 年 月 日
評価検証委員 印

◇判定整理表 詳細

判定整理表(詳細)

※事務局(林政課)が作成
※評価番号毎に作成

【I実績】

アンケート結果(5段階評価)を集計し、各年度の平均点をABC判定する。
■対象:補助事業者
■実施年度:毎年度

【効果II-1、II-2】

補助事業者及び地域評価者からのアンケート結果(5段階評価)を集計し平均点をABC判定する。
■対象:補助事業者
地域評価者
■実施年度:事業着手から2年後(3年目)

□荒廃した里山・平地林の整備

評価番号 市町村-事業名- 評価年度-番号	実施 年度	計画 番号	市町村名	事業区分	事業細区分 /細々区分	新規 継続	事業名	事業実施者もしくは 活動団体の名称	事業概要	事業費 (円)	県補助金 (円)	評価年度	I実績		効果II-1		効果II-2		判定 ①+②+③
													補助 (自己評価)	①平均	補助 (自己評価)	地域	②平均	補助 (自己評価)	
前橋-荒廃-H28-1	H26		前橋市	里山・平地林	整備 /森林		松枯れ林地再生事業	NPO法人 赤城〇〇	松枯れ地域の森林造成のための地替えなど準備作業	215,600	215,600	H28	16	16	8	8	11	11	35
	H27		前橋市	里山・平地林	苗木購入	継続	松枯れ林地再生事業	NPO法人 赤城〇〇	森林の持つ公益的機能(保健・保養機能)を高めることを目的とした植林活動	120,000	120,000	H28	16	16	8	8	11	11	35
	H27		前橋市	里山・平地林	管理 /森林	継続	松枯れ林地再生事業	NPO法人 赤城〇〇	地域住民による森林の公益的機能を高めることを目的とした植林地の管理活動	123,200	61,600	H28	16	A	8	8	11	11	A
	H28		前橋市	里山・平地林	管理 /森林	継続	松枯れ林地再生事業	NPO法人 赤城〇〇	地域住民による森林の公益的機能を高めることを目的とした植林地の管理活動	123,200	61,600	H28	-	A	-	-	11	11	A
	成果	例) ・当初の目的どおり松枯れ林地に、新たな苗木を植栽することができ、林地の再生が図られた。 ・取り組みについては、継続的に実施できており、作業に参加する人数も増えている。																	
	課題	例) ・前年度については、地替えなどに多くの労力がかかり大変であった。作業にあたって事前準備などに課題が生じた。																	

【課題・成果】

アンケート結果(コメント型)を整理、集計し、成果、課題に分けて記載。
※5段階評価では判断できない要素を、コメント型(自由記載方式)により意見をまとめる。
■対象:補助事業者
地域評価者

効果II

補助事業者及び地域評価者からのアンケート結果(5段階評価)を集計し平均点をABC判定する。
■対象:補助事業者
地域評価者

評価番号 市町村-事業名- 評価年度-番号	実施 年度	計画 番号	市町村名	事業区分	事業細区分 /細々区分	新規 継続	事業名	事業実施者もしくは 活動団体の名称	事業概要	事業費 (円)	県補助金 (円)	評価年度	I実績評価		効果II-1		効果II-2		判定 ①+②+③
													補助 (自己評価)	①平均	補助 (自己評価)	地域	②平均	補助 (自己評価)	
前橋-荒廃-H28-2	H26		前橋市	里山・平地林	管理 /竹林		◇◇自治会 里山管理事業	◇◇自治会	市がH24年度に整備し、その後地元で継続管理している箇所での下草刈り	4,000	4,000	H28	5	4	3	3	7	7	14
	H27		前橋市	里山・平地林	管理 /竹林	継続	◇◇自治会 里山管理事業	◇◇自治会	地域住民による安全・安心な生活環境づくりを目的とした竹林の管理活動	8,000	4,000	H28	3	C	3	3	7	7	C
	H28		前橋市	里山・平地林	管理 /竹林	継続	◇◇自治会 里山管理事業	◇◇自治会	地域住民による安全・安心な生活環境づくりを目的とした竹林の管理活動	8,000	4,000	H28	-	C	-	-	7	7	C
	成果	例) ・事業としての取組は小規模であったが、事業を継続することにより自治会活動への参加者が増加し、地域自らが地域の環境を守るという取り組みが実施できた。 ・〇〇〇〇〇																	
	課題	例) ・〇〇〇〇〇 ・□□□□□																	